

宮池小だより

第1号 半田市立宮池小学校
平成23年度4月22日発行

「教えるとは ともに希望を語ること 学ぶとは 誠実（まこと）を胸に
きざむこと」（ルイ・アラゴン）

教えるとは、単に知識を注入することや伝達するだけではなく、子どもに自信と希望をもたせることだと思います。「これができたね。すごいぞ。次は、これができるかもしれないね。」自信と希望が子どもを元気にさせます。元気になるのは、子どもだけではありません。それに関わる教職員だって元気になります。そのためには、教職員は、謙虚に学び続けなければならないと思います。学び続ける者のみが、人に教える資格があると思っています。このことを胸に刻み教育に取り組んでいきたいと思っています。

「一人ひとりが輝く学校」 「なかよく 考え たくましく」

春の陽の光にやさしく包まれた4月6日（水）に、多くの来賓の皆様ならびに保護者の皆様に温かく見守られ、うれしい気持ちを満面に浮かべながら1年生が元気よく小学校での第1歩をふみ出しました。翌日の始業式では、1年ずつ進級した喜びを胸に秘め、新しい友だちや先生との出会いがあり、宮池小学校の平成23年度がスタートしました。今年度は1年生129名を加えて、全校児童891名となりました。そのすべてが、かけがえのないすばらしい子どもたちです。その子どもたち一人一人が、明るく輝けるよう全職員が団結して、学校教育目標の「なかよく 考え たくましく」に向かって全力で教育活動に取り組んでいきます。昨年度同様、地域や保護者の皆様のご理解とご支援をよろしくお願いします。



「当たり前前の生活に感謝」「生きる力」

「当たり前前の生活ができる日々は実に幸せであり、なんとありがたいことか…。」つくづくと考えさせられる毎日です。3月11日に発生した、東北地方太平洋沖地震により、未曾有の大被害を受けた被災者のみなさんの悲しみと苦悩を知れば知るほどに、いったい私たちに何ができるのか、何をすればよいのか。自問自答する時がいたずらに過ぎていきます。しかしながら、被災者の皆さんの心に寄り添い、募金やボランティア活動等、自分ができることを見つけ協力している人々の姿に心を打たれます。また、被災者の皆さん自身が、救われた命に生かされていることを感謝し、前向きに生きていこうとする様子を見るにつけ、改めて人々の心の気高さに感銘します。そして今、いろいろな人に勇気づけられ、日本は今一度立ち上がろうとしています。そうした中で、希望をもち、ともに助け合いながら、しなやかにたくましく生きていこうとする日本人の育成こそが、今後私も教職員に課せられた課題でもあると思います。そこで、「生きる力」をキーワードに、当たり前前に生活できる喜びに感謝し、子ども自身が個性を発揮し、日々の学びに感動できる教育活動の創造に努めていきたいと思っています。（文責 校長）